

明けまして

おめでとうございます！

市議会議員となり、4回目の新年を迎えることとなりました。本年もどうぞよろしくお願い致します。この4年間の活動の真価が問われる2月の大分市議会議員選挙に向けて、全力で取り組みます。「コロナ禍」ではありますが、みなさまの笑顔につながる活動を継続します。今後ともみなさまの声をお聞かせください。



今回の号外では、まず、「えがお16号」には掲載していない内容をお知らせ致します。

**【感染症対策と今後の学校教育について】** ③⑥については、16号に掲載

2020年第4回定例会(12月議会)で、質問した内容は、以下の通りです。

- ①「スクールサポートスタッフ」「学びのアシスタント」の配置状況
- ②支援事例と成果
- ③大分市独自の専門スタッフ等の配置
- ④「臨時休業」後の支援体制
- ⑤各種学校行事への対応
- ⑥「30人学級」の全学年への導入拡大と早期の段階的な導入

④について、甲斐は・・・

感染者が確認された学校の「臨時休業」後の学校及び児童生徒への支援体制、とりわけ人権的なこと、差別や偏見が生じないための取り組みについて・・・質問をしました。

◎教育部教育監答弁(抜粋)

11月に各学校に通知した「大分市立学校 新型コロナウイルス感染症対策と教育活動に関するガイドライン」の中で、日常の教育実践において、感染者、濃厚接触者等に対する差別や偏見を許さない取り組みの充実を求めている。今後とも、子どもへの指導はもとより、保護者や地域社会を含めた者会全体で意識が高められるよう人権・同和教育及び人権啓発をより一層充実させていきたい。

**【甲斐の思い】 スクールカウンセラーなどの臨時的な派遣を要望。**

学校再開後に子どもたちが不安や悩みを抱えている場合が想定される。担任や養護教諭だけではなく、専門知識を持たれた方が待機し、すぐに相談できる体制を準備しておくことはとても大切なことだと思います。学校再開後の期間を決めての体制や学校からの要請に応じて早期に派遣できる体制でも構いません。このような体制を整えているから「大丈夫だよ、いつでも相談してね」と現段階から発信しておくことも、子どもたちにとっての安心感につながると思います。

